

発展的評価項目＜独自評価項目＞

～事業所におけるサービスの質の向上のためのシステムについての評価結果です～

事業所名： けやき荘

取り組み	利用者様と職員の負担軽減を目指す 入浴の見直し	取り組み期間	6年3月～ 6年7月
------	----------------------------	--------	---------------

PDCA	取り組みの概略
「P」 目標と 実践計画	施設では入浴設備が1階にしかなく、居室は2、3階のため、入浴の誘導に時間がかかり、入浴介助が他業務を圧迫してしまう。また、1階はエアコンの効きが悪く、玄関から外気も入り、利用者様から「寒い」と言われることがある。そこで、長期目標に「①利用者様がゆったりと心地よいと感じていただける安心・安全な入浴を行う、②誘導時間の短縮により、利用者様の待ち時間を軽減する」、短期目標に「入浴設備を各フロアに設置する」を置き、取り組みを実践した。
「D」 計画の実践	具体的な取り組みとして、①特浴、中間浴の移設が設備面で可能なのか確認する、②一般浴は移設できないため、新しい浴槽の選定を行うことを決めている。また、運営会議の場で、取り組みの状況を報告し、工事の日程を書面にして配布し、職員全体で取り組みを共有した。
「C」 実践の評価	本館の2階と3階に、新たに浴室を確保することができた。スペースに限りもあるため、特浴は2階に、中間浴と個浴は3階に移設し、1階の浴室は使用せず、入浴サービスを開始した。その結果、①浴室への誘導にエレベータを使わないことで利用者様の待つ時間は軽減した。②利用者様からの「寒い」という訴えは軽減した。③違う階の浴室を使う利用者様もいたが、フロアでの待機になり、くつろいで待つことができた。レクリエーションに参加しながら、待つこともできた。
「A」 結果と 改定計画	取り組みは、フロアの職員と入浴介助の職員で協力して実施することができるため、入浴の負担だけでなく、フロア対応についても負担が軽減できた。その分、レクリエーションやコミュニケーションの時間を増やすことも可能となった。思いがけない効果として、フロア職員と入浴介助職員のコミュニケーションが取りやすくなった。ただし、空調設備が整っておらず、非常に暑く、職員への対策に不備があったこと、浴室が浴槽を入れることで想定より狭くなってしまったため、環境の整備が必要との反省もあった。取り組みは継続して、エアコンや送風機の取り付けを行い、整理整頓で脱衣スペースを確保することを決めている。

＜第三者評価コメント＞

今回の取り組みで成果もあがっているが、課題も残っている。取り組みは継続することとしており、今後の発展に期待する。

課題抽出項目＜独自評価項目＞

～内容評価項目について、次への取り組みを事業所が検討した結果です～

事業所名： けやき荘 _____

内容評価項目の＜A18:利用者が終末期を迎えた場合の対応の手順を確立し、取組を行っている＞を取り上げ、今後の具体的な取り組みを検討した結果です。

事業所による取り組み

内容評価項目＜A18:利用者が終末期を迎えた場合の対応の手順を確立し、取組を行っている＞	自己評価の内容	<ul style="list-style-type: none"> これまで生きて来られた個人の生活を尊重し、逝去されるその日まで自分らしく生活ができ、その人らしい最期を迎えられるよう取組んでいる。入所時、看取り介護についての説明、今後の治療方針、緊急時の対応について、ご本人・家族と話し合い、入所中の医療処置や要望など確認している。入所中の状態の変化については、日頃から多職種で共有し家族や身元引受人へ情報提供をしている。医師には利用者と家族の関係性や特徴、医療面での意向など伝えている。身体状態の経過をみながら、衰弱の進行や状態低下に応じて、医師が医学的知見に基づき回復の見込みがないと判断した場合に、看護職員、生活相談員、介護支援専門員が同席し、医師から家族に回復が望めない状態であることや施設で出来る範囲と内容について説明（説明時にはなるべく複数の家族同席を依頼。）認知症で家族がいない場合は、ご本人に最善の方針を医療、ケアチームで話し合い更に話し合いの中で心身の状態により決定が困難な場合など看取りケア委員会で話し合いを行っている。看取りケア開始にあたり、カンファレンス実施し、ご本人の様子や今後の日常ケアを説明、ご家族、ご本人の希望などすり合わせをし、看取り介護の同意書、緊急時の連絡、立ち合いの希望、連絡時間の確認、看取りケア計画書の説明と同意を得てから行っている。看取り後、ご家族にアンケートのお願いや、職員の振り返りアンケート実施をしている。
	自己評価で気づいたことについての今後の具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 身寄りのない方、意思疎通が難しくなってからの状態で入所される方の意向を、どうくみ取り対応していくのか改めて課題となった。今後は終末期になる前から、状態の変化など医師や看護師からの意見を聞き取りしながら繰り返し成年後見人に伝えられるよう取組む。

＜第三者評価コメント＞

利用者の終末期の対応について、身寄りのない方や意思疎通が難しくなってからの状態で入所された方の今後の具体的な取り組みを決めている。取り組みの成果に期待する。